

米代川流域における森林・林業活性化への取組

秋田県鹿角地域振興局農林部

森づくり推進課 主査 小笠原健太

1. 趣旨・目的

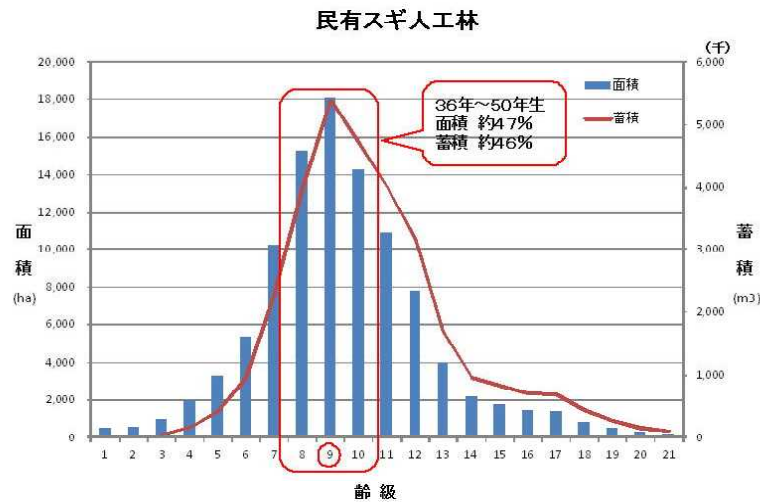
秋田県北部に位置する米代川流域は、県内3流域の1つで、これまで天然秋田スギの産地として本県経済の発展に寄与してきました。

天然秋田スギの資源量はほぼ枯渇してしまいましたが、現在も人工林によるスギ資源に支えられた流域となっています。

近年の木材生産に関する政策の転換や、森林の多面的機能の持続的発揮などへの関心が一層高まっているほか、県内他流域の大型製材工場や合板工場などの量産工場の台頭など、国産材を取り巻く社会環境は大きな変化を見せています。

このような中で、当流域の私有スギ人工林の齢級別資源構成のピークは9齢級となり利用可能な資源となっており、また今後、製材適材となる10齢級以上の林分が急速に増加することから、秋田スギ製品の産地体制強化を図り、素材の安定供給体制の確立を急ぐ必要があるため、国及び市町村や米代川流域林業活性化センターと連携して、米代川流域の森林・林業活性化に向けた条件整備に取り組んでいます。

米代川流域の森林資源構成



2. 取組の内容

(1) 米代川流域森林・林業活性化プロジェクト推進

当流域では、現在5年単位4期目の米代川流域森林・林業活性化プロジェクトにおいて、森林・林業活性化に向けた条件整備の目標を掲げており、川上から川下を一体としたスギ一般材加工供給基地づくり体制を整備して、プロジェクトを推進していくこととしております。

(2) 普及指導活動

- ・流域の各総会や協議会に出席して関係者との連携・調整
- ・説明会等において情報の共有
- ・研修会に参加して事業者等への人材育成
- ・各事業実施計画の作成支援

3. 取組の成果

(1) 川上分野

原木を安定的に供給する体制づくりのため

- ・民・国連携による集約化モデル団地内において林業専用道が完成
- ・高性能林業機械の導入推進



集約化モデル団地内林業専用道

(2) 川下分野

秋田スギ製品の生産拡大のための施設整備

- ・木材流通センターが移転整備
- ・チップ工場の開設
- ・製材工場の大型製材施設の増築、プレカット工場の増築



木材流通センター移転

(3) 木質バイオマス活用関連

利用促進に向けた整備

- ・民間工場によるチップボイラーの稼働
- ・森林組合による車両搭載型の移動式チップパー導入



民間工場チップボイラー稼働

4. 課題

(1) 低コスト素材生産システムによる生産量の増加

川上から川下においての施設の整備は整ってきましたが、次に低コスト素材生産システムによる生産量の増加が必要となります。

(2) 森林経営計画作成促進

生産量増加のためには、小規模で分散した森林を面的にまとめて集約化する、森林経営計画の作成促進が必要不可欠となります。

(3) 流域内各地域での作成率の較差

当流域は県内他流域に比べ計画作成率が低い傾向にあり、尚且つ流域内各地域においても作成率に較差があります。

5. 考察

(1) 今後取り組むべき内容

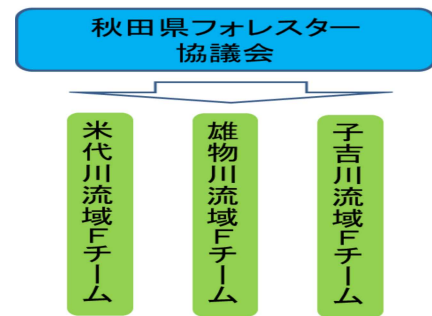
当県では、平成25年7月に秋田県フォレスター協議会を発足し、民有林と国有林が連携して情報交換等を強化していくため、県内3流域にフォレスターチームを編成することとしました。

① フォレスターチームによる流域一体となった活動

- ・ 指導、助言
- ・ 各種研修会での人材育成
- ・ 情報共有

② 森林経営計画作成促進

- ・ 流域内の更なる森林経営計画の作成促進
- ・ 流域内各地域の作成率較差平準化



(体系図)

(2) 理由

① 流域森林資源の活用

各普及指導員の個々の能力だけでは当然限界もあることから、流域一体となったチームとして活動を図ることにより、流域の資源を最大限に利用し、林業の活性化や持続的な森林経営及び生物多様性保全など、森林の持つ多面的機能の向上に繋がると思います。

② 牽引者の育成

チームによる活動を通じて、コミュニケーションの場を増やし、個々のスキルを向上させ、流域林業の将来を担う牽引者の育成に結びつき、森林経営計画の作成促進、延いては流域の森林・林業活性化に繋がると思います。

(3) 期待する成果

当流域の活性化が、川上から川下における林業活動の核となり、他の地域への普及拡大のきっかけになり、更には広域的・長期的な視点にたった地域の森づくりをゾーニングしていき、木材のサプライ・チェーンの構築を併せて展開することができ、外材需要を地域材に置き換えることへの第一歩に繋がると期待しています。